

# ちよつといひ話

## ～ 時の重さ ～

人の一生はで始まる家康公の有名な遺訓があります。その中に「堪忍は無事長久の基」、「勝事ばかり知りて、まくる事を知らざれば害其の身に至る」、「人はただ身のほどを知れ、草の葉の露も重きは落つるものかな」との訓戒が記されております。家康公の人生そのものですし、そのまま私達の教訓として受け止める事が出来ます。まさに急ぐべからず、時と心に余裕をもてる事が肝要です。皆様も時と葛藤の毎日を送って見える事と推察致します。

私達の生命は佛様から頂いた佛性に因って、過去、現在、未来へと推移し留まる事無し、時間の止まることは無く、現在は過去に、未来は現在に瞬時に移動し、そして娑婆の肉体は燃え尽き終焉となります。後は目に見えない魂のみが一人、時を刻む事になります。佛性を磨く事が魂を磨く事であり、私達が一生をかけて傾注しなくてはならない事です。魂の変換期は肉体消滅の時が大事であり、生命の宿る時は死んだ時の魂の出来、不出来に因って親が決まってしまう。これを因縁と呼んでおります。「親の因果が子に報い」とはこの訳から判ると思えます。親の行状の悪い家庭にあっては親が亡くなってからの追善供養が大変です。ですから人は生きている間に佛縁を結び、佛性を磨き、佛弟子として恥じる事の無い生活をし、念佛、念法の心を持ちましょう。

私達は重病人を除いて、時として与えられた生命に限りがある事を忘れております。人の一生は長い短いだけでなく、その内容も大切です。生命には前述の如く尊厳があります。身が勝手に動くのではなく思慮分別をもって行動し、此の世は有為転変である事を認識し、佛縁をもって、より良い方向に導いて頂きたいものです。人の一生をローソクに例えますと、ローソクの長短もありますが環境によって違ってきます。風の強弱によって火が消えかかったり、消えたりしますし、ロウが溶けて短くなったりします。人間の寿命も環境（因縁）によって時を待ちません。希望に満てる様に仏力（悪因を良縁）にすぎり、ご加護を願うものです。まず身心の快樂（けらく）が要求されます。快樂とは精神的苦痛の無い世界です。それではどちらの佛様にお願いすればよいか、佛様にも役割がありますので少し菩薩衆を紹介したいと思います。普賢菩薩は行願、文殊菩薩は智慧、観音菩薩は慈悲、地藏菩薩は悲願にして本願を司ります。又特に地藏菩薩は六道能化（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天人の六階級を導き救って下さる）の慈尊として昔から庶民信仰の中心的存在です。夙に悲願満足守護垂れ給わん事を願うのみです。

善入院油掛地藏尊